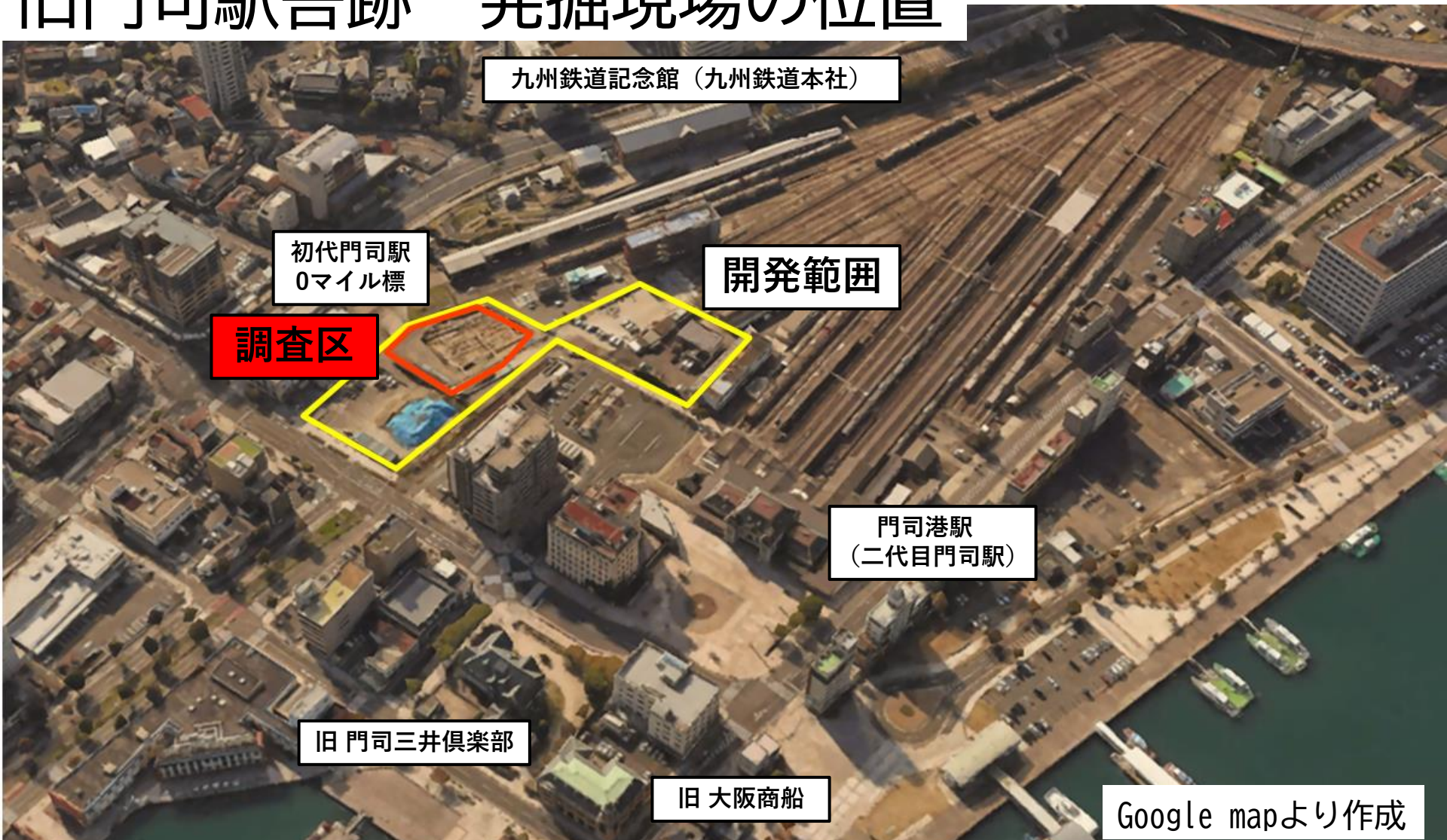


旧門司駅舎跡 発掘調査の成果と概要

旧門司駅舎跡 発掘現場の位置



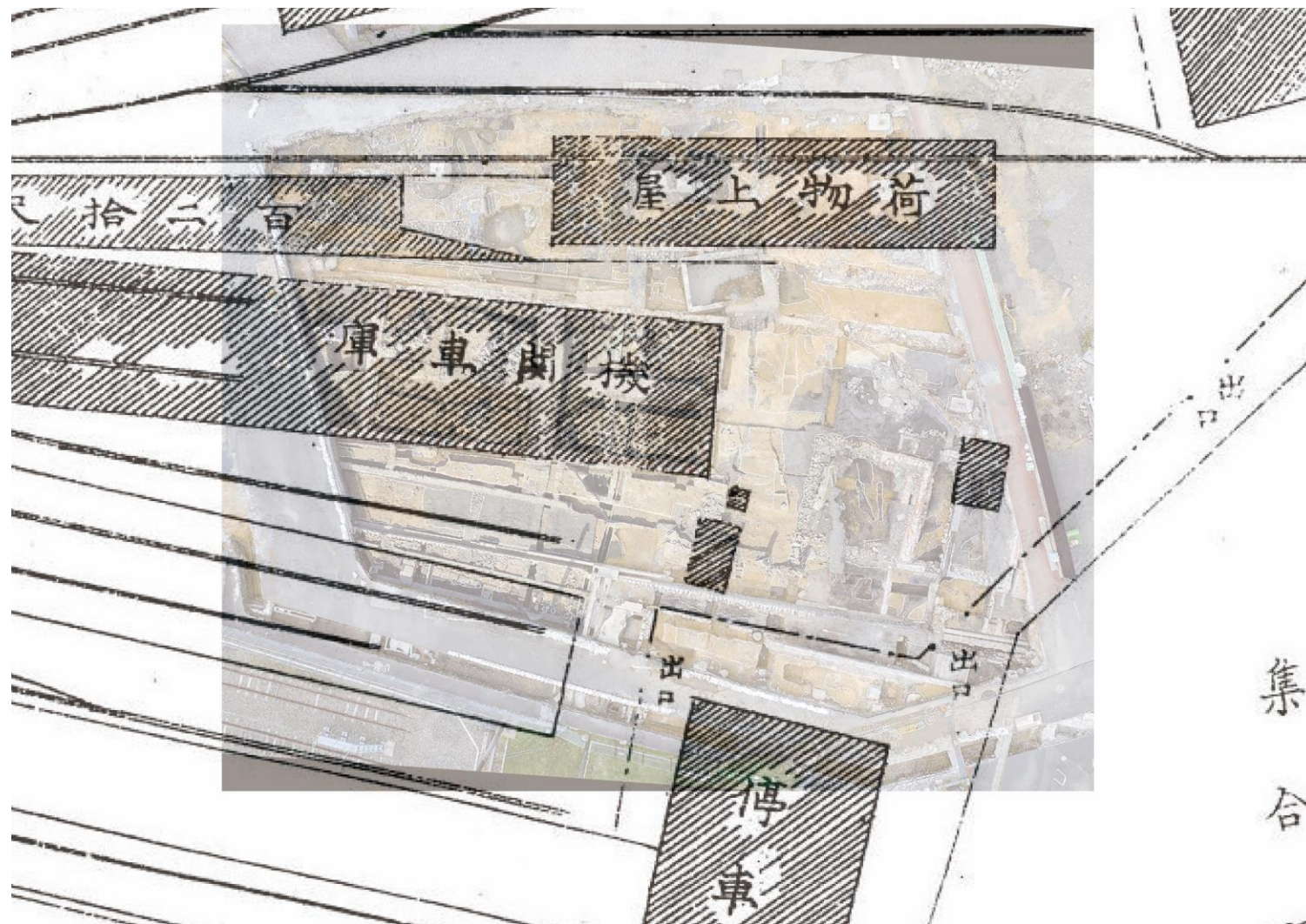
- ・ 令和5～6年度に合計1,670m²の発掘調査を実施
- ・ 門司港駅：1988(昭和63)年に鉄道駅舎として初めて国の重要文化財に指定
- ・ 九州鉄道記念館（九州鉄道本社）：国登録有形文化財

発掘調査区の全景（令和6年度調査時）

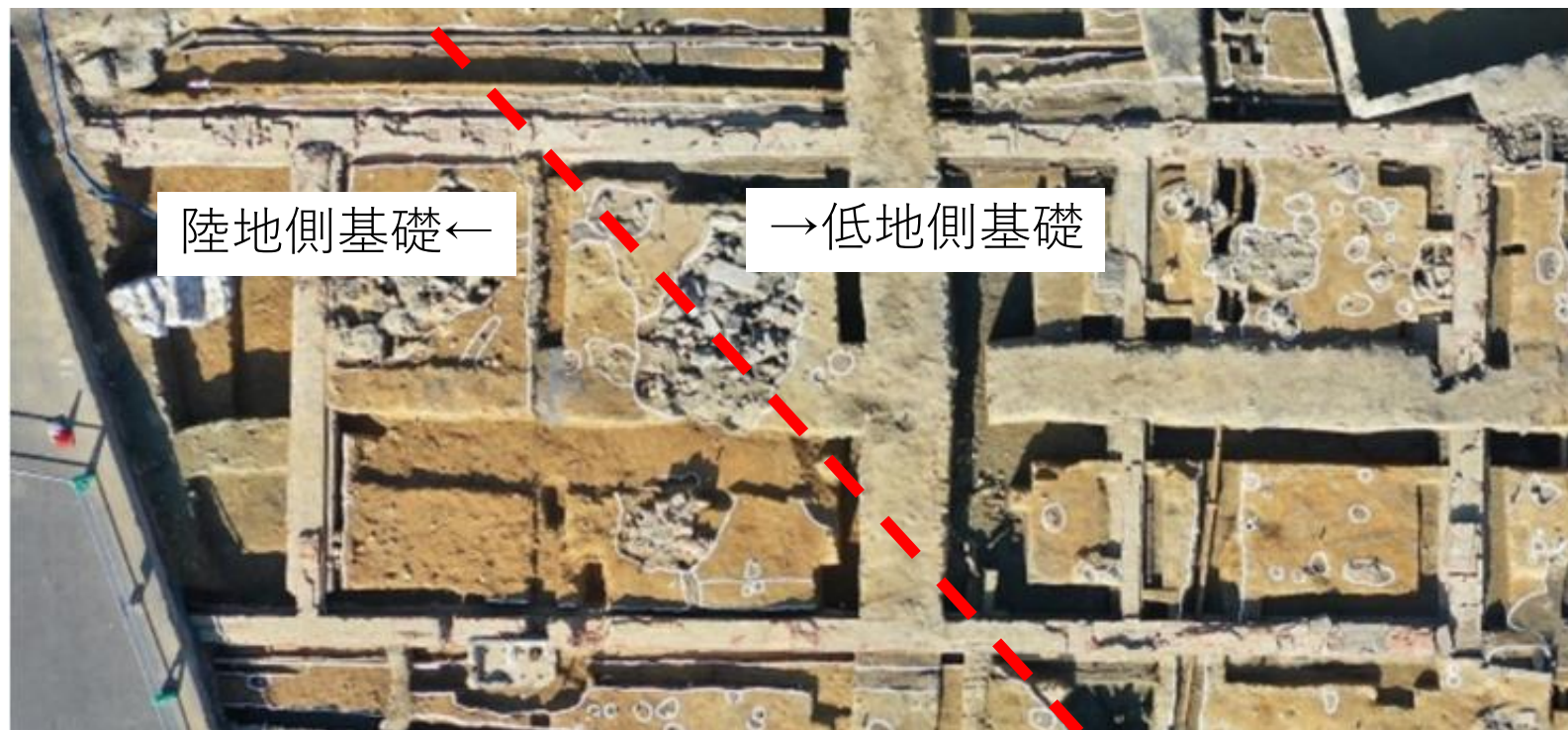
全体遺構配置図



明治30年の構内図と発掘された遺構の比較



機関車庫の全景とその特徴



- 長さ 32.2 m(検出長)、幅 11.9 m、平面は長方形の機関車庫
- 近世の石垣（海岸線の痕跡か）を境に、基礎の構造が変化
- 低地側基礎は造成土に構築され、下側に木杭が打たれる
→当時の技術的な工夫を示すとともに、不同沈下を防ぐ強固な基礎構造

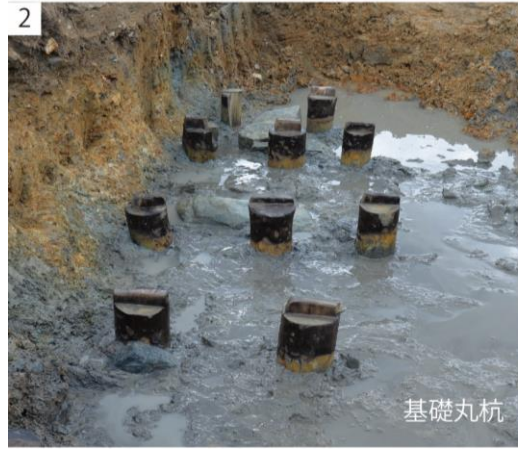
機関車庫の陸地側基礎・低地側基礎



- ・掘削した地山を型枠として利用
- ・直接コンクリートを打設

- ・丸太状の横胴木、板材状の縦胴木を組み合わせ、型枠内にコンクリートを打設
- ・横胴木の下部には木杭を打つ

低地側基礎の下部の木杭



基礎丸杭



縦胴木



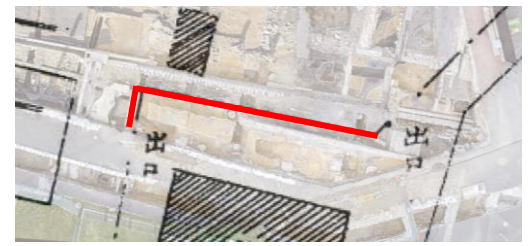
横胴木



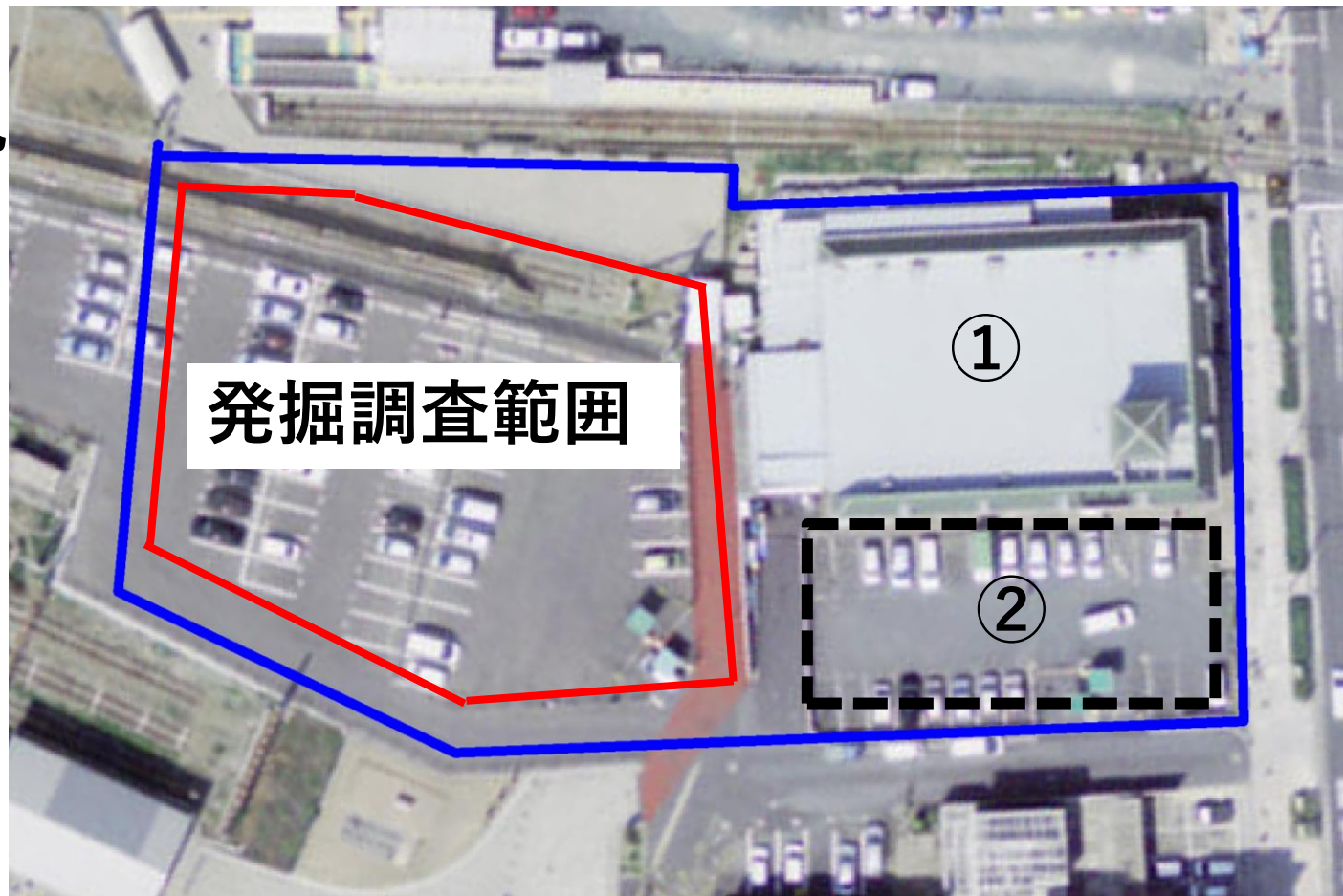
基礎断面



初代門司駅舎 外郭石垣

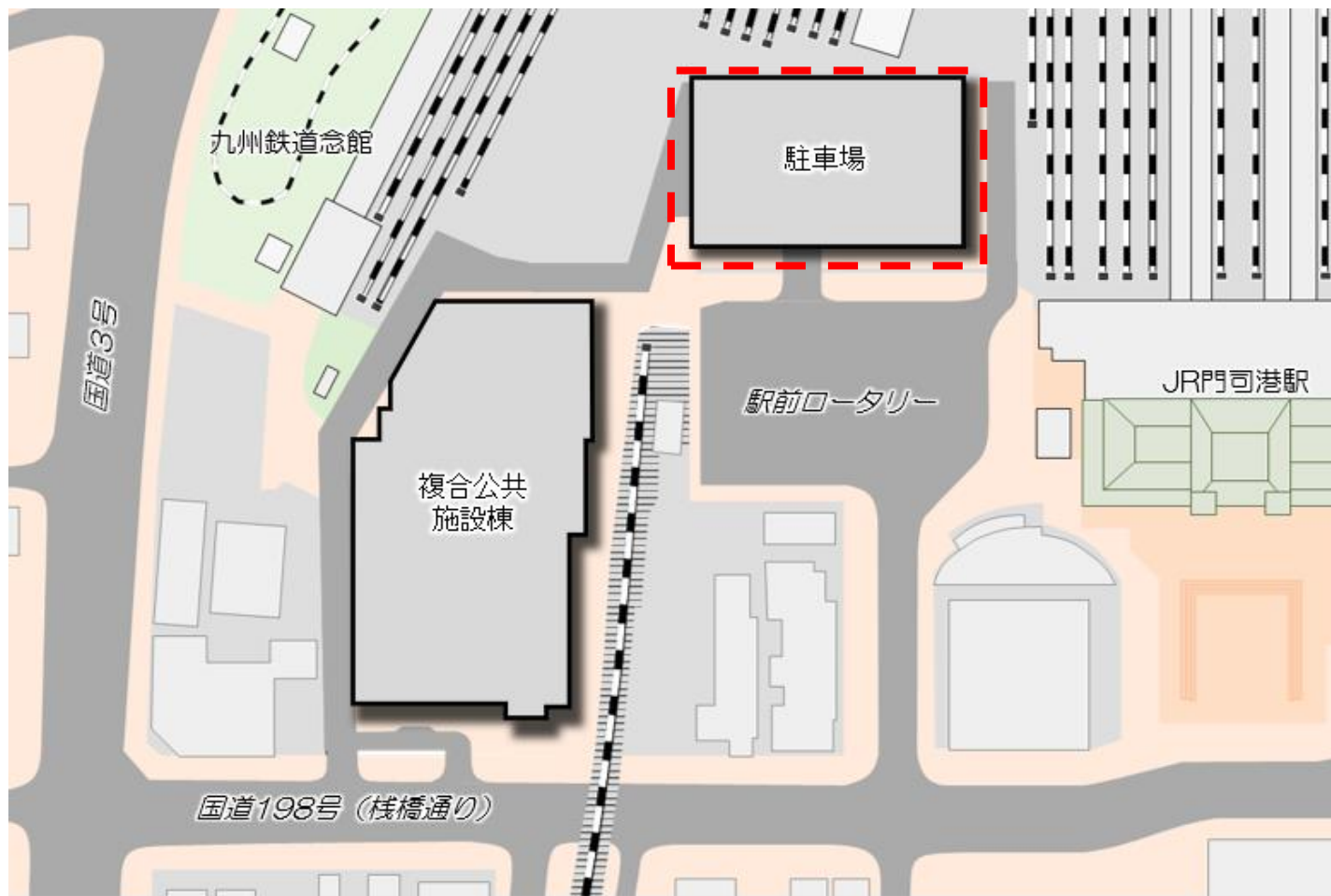


発掘調査 範囲外の状況



- ①1998年(平成8年)以降に建設されたスーパーマーケット
・ 2014年(平成26年)3月に閉店、その後解体
- ②大正3年から昭和8年にかけて建築された「保線運輸両事務所」、
後に「JR九州自動車事業部」などに利用
・ 航空写真の比較から1994年(平成6年)まで存在、その後解体

今後の調査（令和7年度）⇒ 駐車場棟の試掘調査



- ・ 2025年(令和7年)5月以降、試掘調査を実施中
- ・ 既存建物（JR関連施設）解体後に試掘調査終了予定

出土した鉄道関連遺物



しゃひょう どびん ふた
九州鉄道の社標入り土瓶の蓋か

明治時代か



しゃひょう
九州鉄道の社標入り小碗

明治時代か



もじてつどうきよく きしゃどびん
門司鉄道局の汽車土瓶

ちゃびんがた
茶瓶形：昭和時代か

犬釘



きしゃどびん
汽車土瓶

明治～大正時代



きしゃどびん ふた
汽車土瓶の蓋

明治～大正時代

出土した鉄道関連遺物



銘板：大正元（1912）年 アメリカン・ブリッジ社

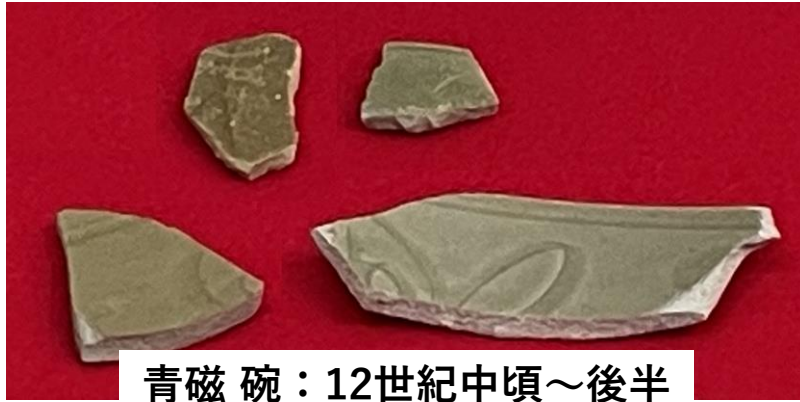
築港前の堆積土から出土した古墳時代～江戸時代の遺物



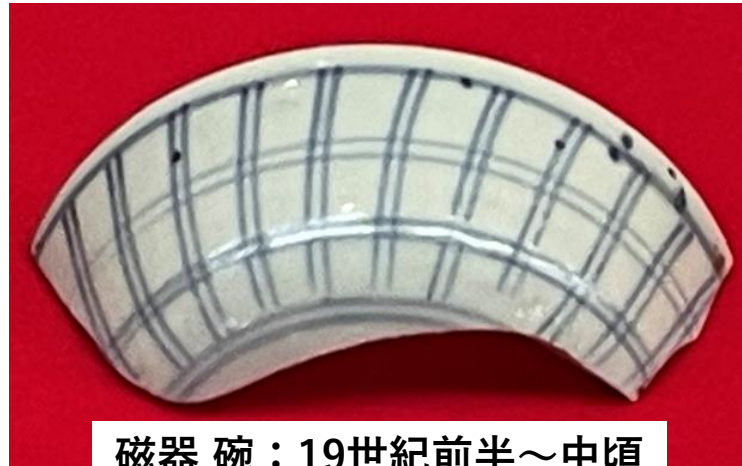
須恵器 甕：古墳時代後期



白磁 碗：11世紀後半～12世紀前半



青磁 碗：12世紀中頃～後半



磁器 碗：19世紀前半～中頃



磁器 筒碗：18世紀後半